



2026年8月27日

各 位

会 社 名 株式会社セイワホールディングス
代 表 者 名 代表取締役社長 野 見 山 勇 大
(コード番号：523A 東証グロース・名証ネクスト)
問 合 せ 先 取締役副社長 井 川 径 成
(T E L : 0 5 2 - 2 6 5 - 8 4 6 7)

株式会社栄進電機の株式取得及び当社グループへの参画（子会社化）に関するお知らせ

当社は、以下のとおり、本日開催の取締役会において、株式会社栄進電機の株式を取得し、子会社化することについて決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 株式の取得の理由

当社グループは、「たたむにはもったいない中小企業を受け継ぎ、選ばれ続けるモノづくりグループをつくる」ことを理念に掲げ、後継者不在等の課題を抱える中小製造業の事業承継（M&A）を連続的に行うとともに、独自の「セイワプラットフォーム」を通じた経営支援によりグループ各社の企業価値向上（バリューアップ）に取り組む、製造業特化型の事業承継プラットフォームであります。当社グループでは金属表面処理をはじめ、大型製缶、電線及びケーブル、液面計の製造等、幅広い分野にて事業を展開しております。

このたび株式を取得する株式会社栄進電機（以下「栄進電機」といいます。）は、千葉県を拠点とし、ワイヤーハーネス製造及び関連部材の販売を行っている企業であります。同社は、主に設備・検査機器用の特殊ワイヤーハーネスを中心として、幅広いお客様に様々な用途の製品を提供しておりますが、後継者不在という課題を抱えており、当社グループの事業承継プラットフォームのもとで、その技術と雇用を承継し、事業の継続と更なる発展を図ってまいります。

当社は、栄進電機の株式取得により、主として以下のシナジーが見込まれるものと判断いたしました。

第一に、栄進電機の主力事業であります設備・計測器などに使用されるワイヤーハーネス加工事業は、お客様からご要望いただいた電線やコネクタを要求仕様に合わせ加工し提供する場合が多く、お客様のご要望により特殊な仕様の電線が求められるケースも少なくありません。当社では既にカスタム電線を得意とする三陽電工株式会社をグループ会社として保有しており、栄進電機・三陽電工2社間の協業により、お客様の細やかな要求にお応えした製品を提供することが可能となります。

第二に、当社グループでは温度センサー付きケーブル「サンサーモ®」をグループ会社の三陽電工にて開発し、積極的に拡販を行っております。現在各種設備・プラントメーカー様をはじめ数多くの引き合いをいただいておりますが、受注に対応する生産能力の拡充が課題となっておりましたが、栄進電機のグループ入りにより、ネック工程となるケーブルの加工に必要なスキルを持った職人を多数確保することが可能となり、今後の受注に対し特に納期面・仕様面においてより柔軟な対応が可能となります。

第三に、栄進電機では既に2百社を超えるお客様とお取引をさせていただいておりますが、当社グループでは2千社近い顧客網を有しており、その顧客網を活用し、グループとして拡販のサポートを実施することで栄進電機単体としても更なるビジネスの拡大が期待できます。

以上を踏まえ、当社は、栄進電機の株式を取得し子会社化することが、当社グループ及び同社の企業価値の向上に資するものと判断し、このたび同社の株式を取得することといたしました。

2. 異動する子会社（株式会社栄進電機）の概要

(1)	名 称	株式会社栄進電機		
(2)	所 在 地	千葉県松戸市稔台七丁目 13 番地 1		
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役 中野 淳治		
(4)	事 業 内 容	電線・ケーブル加工販売、電子部品卸		
(5)	資 本 金	12 百万円		
(6)	設 立 年 月 日	1988 年 4 月 11 日		
(7)	大株主及び持株比率	中野 淳治：99.6％ 中野 文栄：0.4％		
(8)	上場会社と当該会社との間の関係	資 本 関 係	該当事項はありません。	
		人 的 関 係	該当事項はありません。	
		取 引 関 係	該当事項はありません。	
(9)	当該会社の最近 3 年間の経営成績及び財政状態			
	決算期	2023 年 6 月期	2024 年 6 月期	2025 年 6 月期
	純 資 産	287 百万円	351 百万円	417 百万円
	総 資 産	408 百万円	445 百万円	521 百万円
	1 株 当 た り 純 資 産	1,196.47 千円	1,466.26 千円	1,739.63 千円
	売 上 高	1,323 百万円	815 百万円	913 百万円
	営 業 利 益	140 百万円	91 百万円	91 百万円
	経 常 利 益	142 百万円	91 百万円	91 百万円
	当 期 純 利 益	103 百万円	64 百万円	65 百万円
	1 株当たり当期純利益	429.48 千円	269.80 千円	273.37 千円
	1 株 当 た り 配 当 金	－	－	－

(注) 上記経営成績及び財政状態については、監査法人による監査を受けておりません。

3. 株式取得の相手先の概要

株式取得の相手先は、株式会社栄進電機代表取締役の中野淳治氏及び同社従業員の中野文栄氏であります。
なお、当社と株式取得の相手先との間には、記載すべき資本関係、人的関係及び取引関係はありません。

4. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

(1)	異動前の所有株式数	0 株 (議決権の数：0 個) (議決権所有割合：0.0%)
(2)	取 得 株 式 数	240 株 (議決権の数：240 個)
(3)	異動後の所有株式数	240 株 (議決権の数：240 個) (議決権所有割合：100.0%)

(注) 栄進電機の発行済株式総数は 240 株であり、当社は議決権を有する全株式を取得する予定であります。
取得価額につきましては、相手先の意向及び当事者間の守秘義務契約に基づき、非開示とさせていただきます。なお、取得価額につきましては、外部の専門家による法務・財務に関する調査の結果等を合理的に勘案の上、当事者間の協議を経て決定しております。

5. 日 程

(1)	取 締 役 会 決 議 日	2026 年 8 月 27 日
(2)	契 約 締 結 日	2026 年 8 月 27 日
(3)	株 式 譲 渡 実 行 日	2026 年 9 月 1 日

6. 今後の見通し

本件が当社の2027年5月期の連結業績に与える影響につきましては、現在精査中であります。今後、公表すべき事項が生じた場合には、速やかに開示いたします。

以 上

株式会社セイワホールディングス

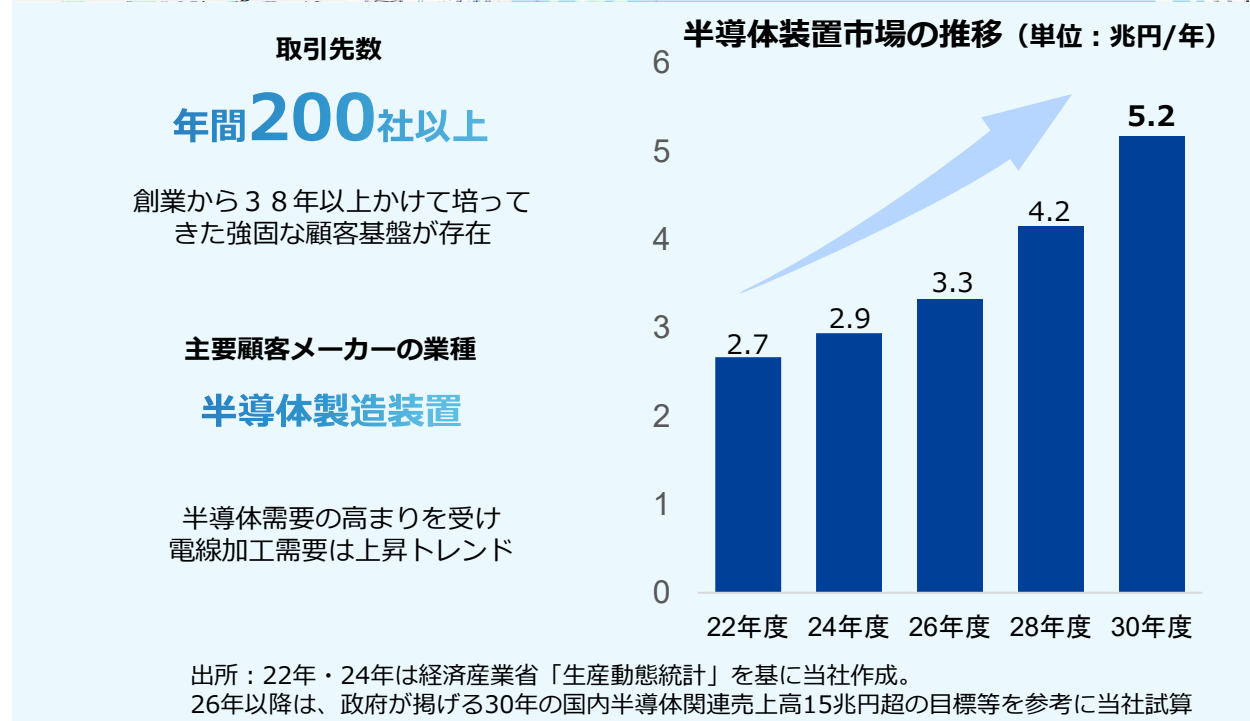
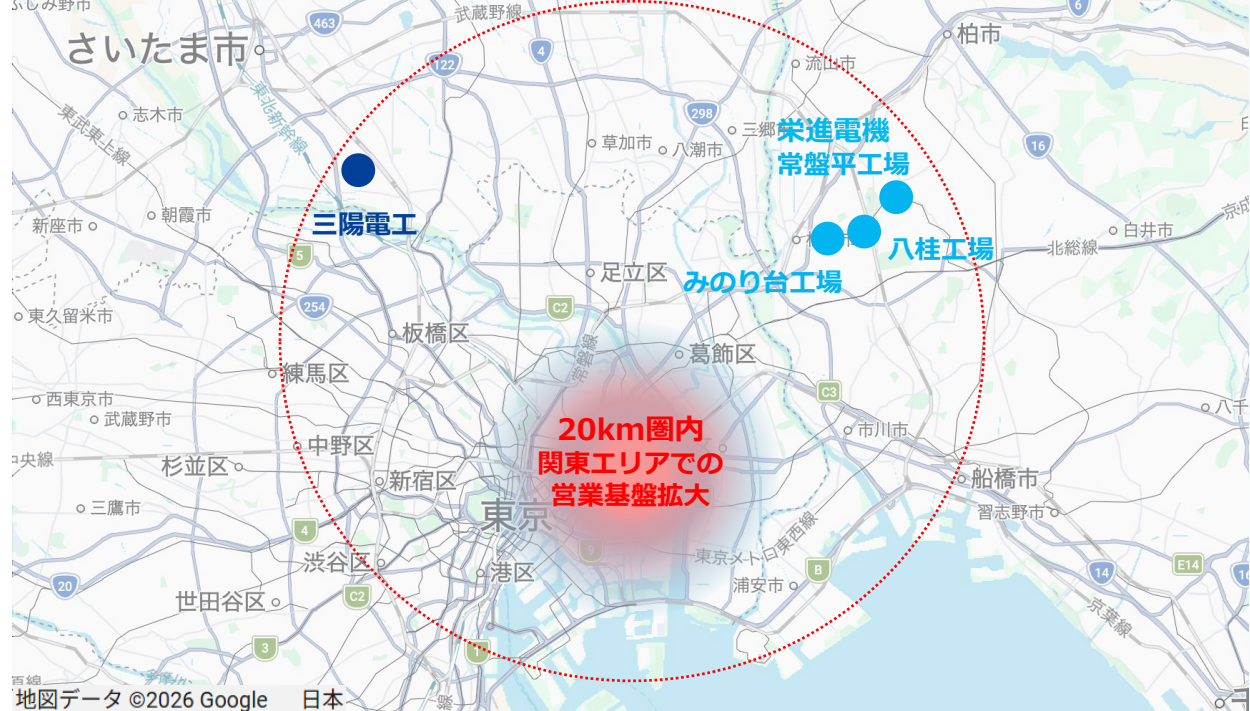
株式会社栄進電機の株式取得及び 当社グループへの参画（子会社化）に関する補足資料

証券コード：523A（東証グロース市場／名証ネクスト市場）

株式会社栄進電機の概要

半導体業界をはじめとする各種設備・計測器向けの
特殊ワイヤーハーネス加工を行う栄進電機を譲受

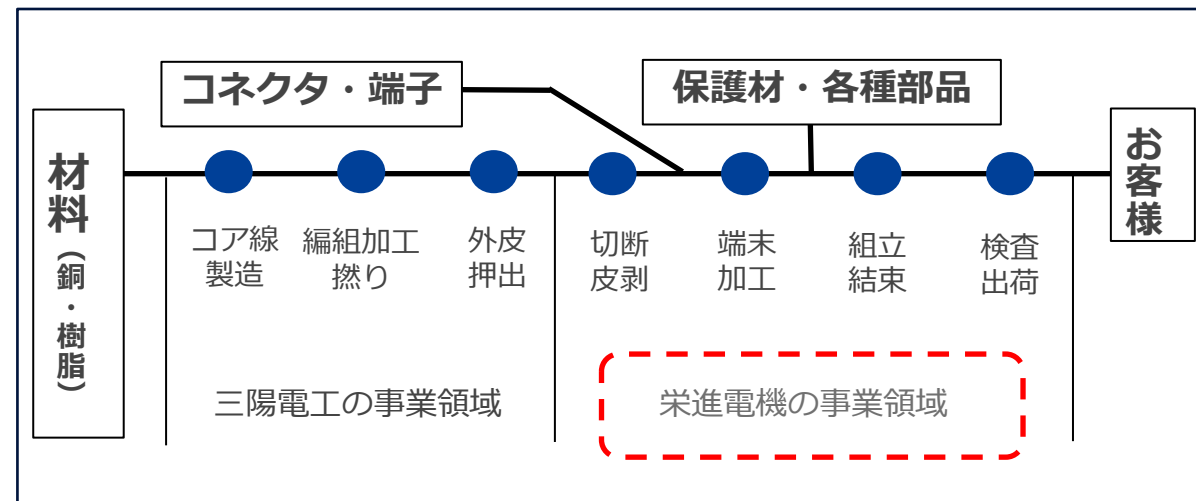
会社名	株式会社栄進電機
創業	1988年4月
資本金	1,200万円
本社	千葉県松戸市稔台七丁目13番地1
工場	みのり台工場・八柱工場・常盤平工場
社員数	95名
事業内容	電線・ケーブル加工販売、電子部品卸
製造対象製品	ワイヤーハーネス・各種電子機器等



今回の譲受により期待されるシナジー

- 当社グループはワイヤーハーネスの主要構成部品である電線・ケーブルの製造工場（三陽電工）を保有。栄進電機のグループ入りにより、電線～ハーネスまでの一貫生産が可能。電線製造を一貫して対応が可能となる
- 大手電線・ハーネスメーカー出身者が当社グループに複数名在籍しており、その知見を用いて製造・物流面の改善を推進することで品質・収益面での改善が期待できる。
- 当社グループでは設備・プラントメーカー様始め自動車・産業機械・船舶等、幅広い顧客網を約2000社保持。それら顧客に対し栄進電機製品のクロスセルが可能。

電線製造～ハーネス加工までの工程イメージ



栄進電機の主要取扱製品



サンサーモ®の将来展開について

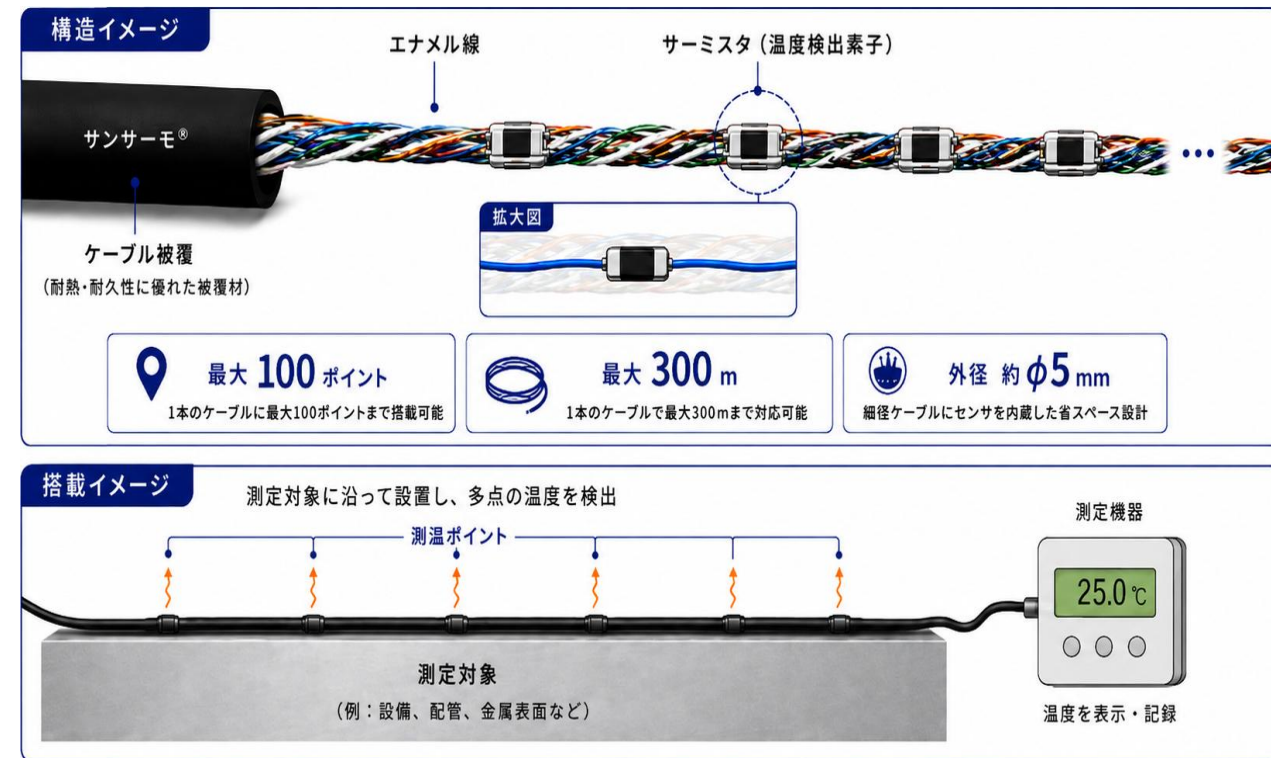
- 当社グループでは**温度センシングケーブル**である「**サンサーモ®**」を**戦略製品の1つ**として**拡販**に取組中。サンサーモは、ケーブルの中にサーミスタという温度検出機構をはんだ付けによって、取り付ける製品。**今後10年以内に5倍以上の売上および粗利拡大を見込む。**
- データセンターの温度監視や、化学・製紙プラントにおける発熱発火の監視、土中の温度監視など、**既存技術の低コスト・短工期を目的とした代替製品**として使用されている。既に日米中韓にて特許を保有しており、現在も大手建設会社との共同研究を通じ、新用途に関する特許を共同出願中。
- 一方で、需要の高まりについて、**サーミスタ加工が将来的なボトルネック**となっていたが、今回の譲受により、当該製造スキルを持った職人を**現行比最大10倍**まで増強することが可能となり、更なる成長が可能になった。

ご参考：サンサーモ紹介ホームページおよび最新IR情報

<https://www.sanyo-denko.co.jp/products/sensor-integrated-cable/>

<https://ssl4.eir-parts.net/doc/523A/tdnet/2867698/00.pdf>

サンサーモ®の仕組み



サンサーモ®の用途（一例）

倉庫・冷蔵庫の温度管理



食品や医薬品の保管温度を遠隔で監視し、品質管理を強化

設備・機械の予防保全



機器や設備の温度を常時モニタリングし、異常の早期発見・予防保全に貢献

環境モニタリング



気象・土壌・水温などの環境データを収集し、環境保全・研究に活用

工事現場の温度監視



コンクリートの養生温度や作業環境の温度をリアルタイム監視

データセンターの温度監視



サーバーラックの温度分布を常時監視し、ホットスポットの早期検知・安定稼働に貢献

インフラ・プラント監視



インフラやプラントの温度データを収集・分析し、安定運用をサポート